

# 北信越体育・保健体育ネットワーク研究会「トキめきラウンド」

北信越体育・保健体育ネットワーク研究会「トキめきラウンド」を、11月5日（土）にオンライン形式で開催し、以下の内容で研修を行いました。



1	開会行事	
2	提言	個別最適な学びと学習課題 日本女子体育大学 高橋 修一 教授
3	研究発表	ハードリング技能を向上させる単元構成の工夫 ～自分にあったコースを見つける～ 新潟市立葛塚小学校 田辺 久人 教諭
4	ワークショップ	桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授
5	閉会行事	

## 提言

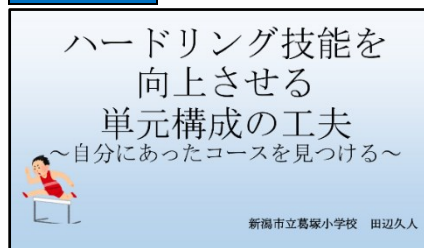


高橋修一先生から「個別最適な学びと学習課題」という演題で講演をしていただきました。

文部科学省や中央教育審議会が示している資料などを基に、基本的な考え方やICTを活用した具体的な学習場面などについて教えていただきました。

参加者からは、自分が現在取り組んでいる実践と比較しながら、個別最適な学びとICTの活用との関連や、これから求められる授業改善の方向性についての質問が出されたり、意見交換が行われたりしました。

## 研究発表



田辺久人先生から「ハードリング技能を向上させる単元構成の工夫～自分にあったコースを見つける～」という演題で研究発表をしていただきました。

「課題を踏切・クリアランス・着地の3つに焦点化して練習に取り組むことができたことが記録の向上に繋がったこと」「見本の動画と自分の動画を何度も比較することで、自分の課題に気付くことができたこと」などが研究の成果として報告されました。

## ワークショップ

佐藤豊先生から以下に示したフレームを提示していただき、参加者を2つのグループに分けてワークショップを行いました。

小学校高学年の「器械運動（マット運動）」と「陸上運動（ハードル走）」を想定しながら、「応用する」「できる」「理解する」「関わる」の4つの視点を基に、各グループで活発な意見交換が行われました。

	領域でみられる手立てが必要な状況	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
応用する	連続技	どこまで行わせる		
できる	体格の大きな子	スピードコントロールなどの調整 擬音語 ICT活用	見る側を意識 空間、時間、 技、曲 ICT活用	作品作り ICT活用による 教え合い
理解する	基礎感覚が養われていない 動きのイメージができない	概念知、身体知の乖離 擬音語 クラウド活用	他者観察による ポイント発見 ICT活用	ICT活用による 学習の調整
関わる	それぞれだと子ども同士関われない	やりたい技能の差 ICTでよいモデル クラウド活用	等質集団のできた基準 クラウド活用	集団化 個別に学ぶ 見合い教え合い

	領域でみられる手立てが必要な状況	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
応用する		通常の50mハードル走(正規の用具・ルール、競争、記録更新)	難しさ、そこに向かっている現状を知る	なかなかうまくいかないこと(できないこと)自体を楽しもう
できる		スピード落ちる 課題(足を伸ばすこと)は分かるが解決できない	見える化(競争相手、数値) 足を伸ばして跳べる場の設定:踏切位置の調整、高さの調整	やり方工夫(例)1台走(自由に設置)
理解する		動画を比較しても課題を見つけられない 複数課題が見つかった時に、どれからやればいいのか分からない		踏切、空中動作、着地の3視点を示す(ICT・静止画>動画) 着地>踏切>空中
関わる		全力出せない(怖い、痛そう)		一度当たる、なぎ倒す 高さ、幅、柔らかさ 川を越えよう(運動遊び)

(文責 三本 雄樹)